

2015

石田会長
新春対談

格好いい
カツコイ

沢田研二へ

インジュリーから

私は、タイガースとしてデビューされる前、沢田さんがファニーズという名前で大阪・なんば一番で歌っていた時からのファンで、あちこちでそれを言っていたところ、関東圏の先輩弁護士からのご紹介で、沢田さんが良く行かれるお寿司屋さんで、沢田さんとの対談が実現しました。

「我が窮状」と 平和への思い

石田 本日は、大阪弁護士会の会報の対談をお引き受けいただきましてありがとうございます。沢田さんとの対談で

きる日がくるとは夢にも思っていなかったのですが、ちょっと緊張していますが、よろしくお願いします。

沢田 こちらこそ、よろしくお願いします。

石田 私は、沢田さんと同い年ですが、同世代人として、沢田さんの生き方が格好いいなとずっと思っていました。特に還暦くらいから、あれだけの人気歌手でいらっしやっただのに、その後自由に誰に遠慮することなく憲法問題や震災復興、脱原発等々の社会問題に関して鋭い発言をされたり、曲を作ってコンサートで歌われているのは、同じ志

ミニの世界、

ライブで伝える想いとは……

沢田研二さん(歌手)

略歴 1967年 ザ・タイガース デビュー
1971年 ザ・タイガース 解散
同年 PYG結成
同年秋 ソロデビュー

を持つものとしてとても嬉しく思っていました。弁護士会も、法律家団体として、また人権を擁護する立場から、集团的自衛権の行使容認の閣議決定の撤回を求めて活動しておりますし、特定秘密保護法の廃止も求めております。また、東日本大震災の復興支援、原発の再稼働についても、人権擁護の観点からの支援や意見発表をしてきています。本日は、その辺について、お話を伺わせていただきます。

沢田さんの作詞で「我が窮状」という歌を歌われていますが、あの歌は、いつ頃、どういう経緯でつくられたんですか。

沢田 僕が還暦になる前頃、大江健三郎さんたちが呼びかけ人になっていらっしゃる「九条の会」から、賛同していただけますかという手紙が来て、集会に行くとかそういうのは気が進まないですけど、賛同することに関しては名前だけならいいですということがありました。しかし、いざ名前が出てしまうと、これで左翼と思われるのかなと思っただけです。大体が、歌手・沢田研二としては、そういうことが一番似合わない人間だと自分では思っていました。いろいろなことが起こるたびに自分としては思うところはその都度いっぱいあるけど、僕がそういう難しいことを言っても似合わないだろうなと思ってたんです。そしたら、ちょうどその頃、政治の世界で、「改憲」というのが出てきて、これはなんかやばいぞと思って、歌い手として何かできることはないかと思ってました。その後、総理大臣が変わって改憲の動きが収まったとき、“今だ”と思ったんです。世の中が改憲とか護憲とか言っていないときに、こそっと分かる人にだけ分かるようにというので——アルバムをつくるときに、大野克夫さんという、「勝手にしやがれ」、「カサブランカ・ダンディ」なんかのほと

「我が窮状」

1. 麗しの国 日本に生まれ 誇りも感じているが
忌まわしい時代に 遡るのは 賢明じゃない
英霊の涙に変えて 授かった宝だ
この窮状 救うために 声なき声よ集え
我が窮状 守りきれたら 残す未来輝くよ
2. 麗しの国 日本の核が 歯車を狂わせたんだ
老いたるは無力を気骨に変えて 礎石になろうぜ
諦めは取り返せない 過ちを招くだけ
この窮状 救いたいよ 声に集め歌おう
我が窮状 守れないなら 真の平和ありえない
この窮状 救えるのは 静かに通る言葉
我が窮状 守りきりたい 許し合い 信じよう

日本音楽著作権協会(出)許諾第417018-401号

んどのヒット曲を阿久さんとのコンビで書いてくれている人が曲先行でつくってくれた歌があって、そのメロディーを聴いたときに、これに9条の歌を何とかうまいこと乗せようと思って、そう思ったらすぐできちゃって。

石田 すぐ歌詞ができるってすごいですね。

沢田 まあそんな勉強もしてないから、浅い、軽い、そういう程度でいいかと。ただ、自分で気に入ったところは、国の窮状、憲法の窮状、そして9条であるところを引っかけてたんです。そしたら、朝日新聞がすぐに取材に来られ、朝刊の「ひと」欄に載りました。何で俺がそんなところに出るのと思ったんですが、覚悟を決めて、左翼だろうが何だろうがいい、自分の思ったことを歌にただけやと。そしたら、その記事が出たあと、いろいろなところから、来てくれ、歌ってくれ、一言でも

いいから話してくれ、今度何月何日に行進があるからメッセージだけでも載せてくれとか言われたんです。ミュージシャンにもいろいろな人がいて、坂本龍一さんみたいに、そういうことを表に出してやる人もいるけど、僕なんかはそれこそ60年代終わり頃にみんなが安保反対と言ったときに、それどころじゃなかった。キャーキャー言われて、そんなこと考えなくていいとも言われたし、安保のことは何にも知らん。きっと世間からは軟弱だと思われてるんだろうな、軟弱だと思われてもしゃあないなと思ってた。でも、その当時から何となく、面倒くさいけど、面倒くさいでは済まんようになってくるんやろうなというふうになってたんです。

タイガースが終わってPYGというグループでやっているところに、京大の結構左翼的な人たちから「おもしろいやん」みたいなことで声かけられて、自分た

※PYG (ピッグ)。沢田研二さん(ボーカル)、萩原健一さん(ボーカル)、大野克夫さん(オルガン)、井上堯之さん(ギター)、岸部一徳さん(ベース)、原田裕臣さん(ドラムス)をメンバーとするロック・バンド。グループ名の由来は、「豚のように蔑まれても生きてゆく」

ちの機関誌にちょっと何か書いてくれと言われて、「えーっ」とも思っていたんですが、よし書くぞと思ったときに、今度は一緒にやっていた井上堯之さんから、「研二、おまえの名前で俺が書くから」といわれて、「えっ、それ違うんじゃないの?」と思いました。そのころ井上堯之さんは、僕のことをそういうことを考えるべきじゃないと思ったのか、似合わないと思ったのかは知らんけど、あほはあほなりに何か言わせてくれたらええやんという思いもあった一方、どこかで胸をなでおろすところがあって、真面目なところに一歩足を入れようとしていたのに入れんで済んだわけです。

ずっとこういうので終わるんだろうかと思しながら、でも人気というものがそんなにずっと続くわけじゃないだろうとも思っていたので、そういうときになったら言えることもあるかと。だけど、

人気がなくなったら言ってくれと言う人もいないのかなあ、人気があるから言ってくれと言うんだらうとかいろいろ思っていました。でも、それからソロになって売れて忙しくなって、それこそバブルのころなんか誰も真面目な話はしなかったからね。毎日楽しけりゃいいみたいな、僕らもそうやって遊んでいたようなことですが、その後人気がなくなってきて、ベテランもベテランという年になって、ちょうど60歳になって、外国を見れば、ロックミュージシャンだって選挙の応援に行っていて、敵対する人たちをけなすみたいなことをやっている。けなさんでええやん、自分とこを褒めとけばええやんと思しながら、僕も、こそっとやろかなと。今人気ないから誰も食いつかんやろうと思ってたんだけど、ちょっと食いつかれてしまったということなんです。

我ら三丁目の夕日世代 にとっての戦争

石田 最近、一つ上の世代の菅原文太さんが亡くなれましたが、菅原さんは反戦平和の思いを伝える活動をされていましてね。美輪明宏さんは前から平和について積極的な発言をされています。また、最近では宝田明さんも、間違っただけで戦争に向かってはいけなないと発言されています。

誰かがそれを継いでいかなんといけませんよね。沢田さん、是非お願いします。

我々「三丁目の夕日」の世代は、戦争そのものは経験していないけど、子ども時代にはまだ戦争の残り香がありました。街には、傷痍軍人さんがいてはったり、ご近所には戦争で息子さんや旦那さんを亡くされたおばさんがいてはったりとか、だから戦争はあかんというのは皮膚感覚として持っています。でも、その残り香が消えてしまった時代に生まれて生きている若い人たちに戦争はあかんという気持ちをどう伝えたいのか。

沢田 自分たちの父親、母親、祖父祖母は実際戦争を体験していて、いろいろな話を聞かせてもらいましたよね。みんながみんな大本営発表を信じて右向け右でいたわけじゃないという話や、近所の人が、子どもを兵隊に送るとき、そら近所の手前があるから万歳と言って送るけど、本当は嫌やったとか。うちの父親は、徴兵検査を身体検査ではねられて戦争に行っていないんですが、舞鶴の軍需工場で火薬を扱っていたらしいです。子ども心にいろいろな話を聞いていて、大声では言えないけど、ほとんどの人は戦争に負けてよかったと思ってたんやろうというのはよく分かってた。「我が窮状」は、9条を大切にしようよ、再びあんな時代が来るのは



嫌だという思いで作りました。

石田 でも、最近では以前より更に9条を変えてしまおうという動きが強くなっているし、閣議決定で集団的自衛権の行使容認までするということが現実のものとなっている。9条を変えて日本が戦争をする国になったとき、改憲を主張される人から前線にお先にどうぞ、互いに血を流す同盟関係が必要と思う方がまず血を流してくださいと言いたいけど、まず、行かへんやろね。

沢田 そうそう、政治家の皆さんは、僕たちよりまだ若いんだからね。けど、「行ってもいいですよ」と言った後、また体こわして行けないとかいう話になるのかなと思うんですけど。

石田 9条の話って、本当はそんな難しい話にしたらあかんのですよね。

沢田 そうです。

石田 みんなが聞いて、なるほどと思うような話じゃないと広がれへん。

沢田 そういえば、9条がノーベル賞平和賞にという話がありましたね。座間かどこかの主婦の人がインターネットでやり始めて。長年受賞者を予想していた人が、ノーベル賞もあり得ると言っていましたね。

石田 もし9条がノーベル賞をとったら誰がもらいに行くんやろうとちょっと楽しみにしてたんで残念でした。

でも、実は若い人の中には9条を変えることには反対やという意見が多いと聞きますが、それが大きな流れにならないのはなぜなのでしょうね。

沢田 みんな新聞も見ないし週刊誌も見ないし。

石田 最近、スポーツ新聞や週刊誌は一般紙よりはっきり書いてますね。見出しのすごいこと。ズバツと書いてます。最近、時々駅でスポーツ新聞を買ってます。

皆さんにすつと受け入れてもらうには、「格好いい」というのも結構大事です。



これが正義だと振りかざすだけではなかなか受け入れてくれない。大事なことを格好よく伝える、これは弁護士には余り向いてないというか苦手なところですよ。その点、沢田さんのような人たちがそつと言うとそれがすごく格好いいトーンになって、みんな、そうだねえと受け入れやすくなる。そういう意味での役割はすごくあると思います。

沢田 いや、それはね、やっぱり今売れている若い人たちの役割ですよ。テレビ、ラジオで活躍している人は30代、せいぜい40代ですよ。そういう人たちと同年の人たちは真面目な話まで余裕がないですよ。バラエティー見て笑って。そういう人たちが真面目な話もしてくれたらいいけど、そんな話しても絶対得することがないからねえ。

石田 そうですね。バッシングを受けますね。ある女性アイドルグループが、戦争って怖いから嫌いというような話をただでたただたかかれていましたね。

沢田 バッシングされなくても、「おまえ、何でそんなマジなの?」と言われてちゃうわけよね。言えるのは、ある程度年齢を重ねてからでないと、「またまたそんな、何?立候補するの?」みたいなことしか言われなわけでしょう。それで立候補する人もちょこちょ

こいるんですが、まともにそういうことを考えられる人というのは若い人ではないですよ。

僕らもそうでしたが、それこそ30歳前だと実感がないですね。例えば、何か知らんけどお金がないということがあっても、それは政治が悪いところまではいかないだろうし、また官僚にも政治家にもすごい人はきついているんだろうし、一概に政治が悪いということも言えないと思うし。言ってることと違うんだけどこの程度でというふうに考えている人がいっぱいいるから、大丈夫とかね。

でも、「この道しかない」なんていうのは思考停止ですよ。いっぱい道あるやん。

石田 うん、子どもの時、寄り道したことないかなあ。

入ろ、入ろ、 みんなで廃炉

石田 沢田さんは、憲法だけでなく、震災や原発に関係する曲もいろいろ作られていますね。「3月8日の雲」、「三年想いよ」、「桜舗道」、「東京五輪ありがとう」や「一握り人の罪」とか。原子力について発言しておかなくちゃと思われた一番のお気持ちはどこからですか。

「東京五輪ありがとう」

東京五輪万々歳 東京五輪おめでとう
被災地を救うため 東京五輪ありがとう

東日本の復興には もっと時間が必要
東京五輪迄あと6年 成功復興叶え

あの町を 忘れないで 思い出して
遠い町の 出来事じゃない

東京五輪万々歳 パラリン五輪おめでとう
被災地を救うため 東京五輪ありがとう

I.O.C.完全ブロック 表なしね
アンダーコントロール 騙す訳ない

東京五輪万々歳 東京五輪おめでとう
被災地を救うため 東京五輪ありがとう

被災地を救うため 被災地を救うため
東京五輪ありがとう 被災地をありがとう

東京五輪万々歳 東京五輪おめでとう
被災地を救うため 東京五輪ありがとう

日本音楽著作権協会(出)許諾第417018-401号

沢田 やっぱ原発は怖いという思いからですね。人間の健康や生活を破壊してしまう。それはあかんやろという気持ちです。

石田 でも、反原発ということは、スポンサーとかとの関係で勇気がいったのでは？

沢田 僕、大阪でやる音楽劇は関西テレビがずっとサポートしてくれてたんですよ。でもやめてくれと言って、自力でやろうと思いました。関テレはタイガースの復活コンサートのときも協力してくれて、それはありがたいんだけど、テレビ局というのは、自分が言いたいことも言えない。これはあかん

やろうということ、原発稼働反対というのはニュースでは出すけど番組で誰も言えないというのはおかしい。どことも一切しがらみをなくさないと言えなくなるというのが僕の主義で、事務所の間はそんなこと言わなくても思っているかもしれないけど、僕はどんどん小さくなっていいねん。発展するだけがあればいいし、ましてや、僕なんか一代だけと思ってるから。

石田 福井の原発は動くべきではないと。

沢田 だって、活断層が下にあるのを「ない」と言い張る。うちら京都は琵琶湖の水ですから。

石田 我々一弁護士なら当たり前にいえることでも、やっぱり元国民的アイドルやった人がそれを言うというのは、大ジャンプというか飛び越える気持ちの大きさが違うのかなと思うんやけども、それはどうですか、やっぱり思い切りが必要でしたか。

沢田 それはやっぱり時間がかかりましたね。

それとね、もうどうでもいいんですよ。過去の栄光は栄光であっていいし、それは忘れられてもいい。でも、黄門様の印籠まではいかないにしろ、俺を誰やと思うとるねんというのが効くのであればそれをフル活用したほうがいいと思ってる。

60になったときに、もうええやないかと。

石田 「勝手にしやがれ」とほっておくわけにはいかんと行動に出られたのですね。

沢田 僕らの世界では、10代に売れた人が60までなんか誰も来てない。自分で言うのも何だけど、おまえ大したやつや、だから、自分のことをもっときっちり使わないとだめだと思っわけですよ。かといって、家族とかそういう人たを犠牲にしてまでやることではない。というのは、うちのお母ちゃんみたいに、9条の歌を歌った途端にどこから石を投げられたりするのん違うのと思う人もいるわけですよ。反原発みたいな歌を歌っている。それを家で自分の確認のために聞いてたらお母ちゃんに聞こえるわけですよ。そしたら、「いい歌やけど歌詞が難しいね」と。

お母ちゃん?! ですか

石田 あ…お母ちゃんって、田中裕子さんのことですか。

沢田 はい。

石田 わっ! 田中裕子さんを「お母ちゃん」と呼んではるんですか。世

間の男性陣から怒りと嫉妬で絞められますよ。

沢田 だけど、自民党が野党やったときには、原発はもうゼロに言うといて、政権をとったらなかったことのように言う。今年出したアルバムの一番お尻を、杉並青少年少女合唱団を使って「みんな入ろ」で、原発について、輪の中に入ろうという歌にしました。「入ろ」は、「廃炉」なんです。今ある原発の名前を子どもの名前にして、大間だったら「おーちゃん」、泊は「とまちゃん」、「みんな輪に入ろ、入ろ、入ろ、皆、廃炉」。民主党がやってたところに30年後に廃炉というやつで、「30年たったら みな廃炉」という歌です。歌詞カードに書くのと聴くじゃないですか。かといって、それだけ独立させることはできなくて、最後の歌が「一握りの人の罪」という歌で、それが終わって何秒かあった後に「入ろ 入ろ みな廃炉」というのをに入れてあるんですよ。

石田 沢田さんがこんな歌を歌ってるの知らない人もいますよね。

沢田 知らない人だらけです。知らない人がいっぱいいてくれるから電車にも乗れるし。

石田 石投げられんと、道も歩ける。

沢田 うん。どこにでも行けるんです。僕は日頃ほとんど歩かないから、できるだけ歩くようにするために、よし今日はお歳暮を買いに行こうとか、知り合いの舞台が始まるから楽屋見舞いを出しにいこうと思って歩いて行くと、お店が11時開店なのに早く着くことがある。そうかと。じゃあ、食べログとかの広告で興味を引いている店がある、現在地から調べたら結構近いがなと思って、歩いて探すんですよ。行ったら、まあ外から丸見えとか、あるいは地下、地下はあかんど、地下は嫌いなんです。そうやってぐちゃぐちゃしてると1日1万歩なんかすぐ歩いちゃうんです。

石田 1万歩は結構な距離ですね。

沢田 うちからここまで来て、帰ったら大体1万歩です。片道5000歩。歩いたら40分ぐらいかかる。今日は歩いてないですよ。歩いたらもう話できないんで。

伝えていこう

石田 しかし、沢田さんが食べログでお店探しているとは意外でした。でも、もう朝日新聞にも載ってしまったのだから、沢田さんがこういうことをされているとどんどん伝えたほうがいいですね。

沢田 うん、それまあね。それもね、ミニの世界で伝える。

石田 できるだけ小さいところから。

沢田 そうそう。皆さんテレビの力はすごいと言われるかもしれないけど、テレビを見ている人の中でそういうことに興味が行く人は少ないかもしれない。自分たちが得意なところはやっぱり口コミです。僕らはマスじゃなくて、数少ない人たちの中でミニでやってるから、大体ライブというのはミニの世界ですから、口コミが一番強いんですよ。ミニの強さというのは口コミなんです。ケータイもあるかもしれん、スマホもあるかもしれん、インターネットもあるかもしれないけど、結局はそういう中でなくていいんだというふうにならないと。僕、最後のワープロを持ってるんですよ。歌詞をつくるときにいまだに片手ですけれども、それを使っている。つないだらパソコンにもなるというやつなんだけど、そんな気はまるでないわけですよ。

石田 じゃ、インターネットやメールは全然なさらないんですか。

沢田 やってないです。知らない人とつながりたくない。「私は一人じゃない」じゃなくて、「俺は一人になりたい」。

石田 私も、一人が好きですが、今年の大阪弁護士会のキャッチコピーは「あなたを一人にしない 私たちに相

談してください」です。もちろん、一人になりたい人はほっときます。

沢田 困ったときは、一人にしないでください。

石田 困ったときには、ご相談ください。でも、その人が幸せなときは私どもは静かにしております。

伝えるという点では、少なくともこの大阪弁護士会の会報は大阪弁護士会会員約4,000人は見ます。他の弁護士会にも裁判所・検察庁にも送っていますので、結構皆さんこれを見てくれています。口コミ効果抜群です。

沢田 僕は、コンサートをする場所で、原発の署名をするんですが、会場によってはそういう活動をやってもらったら困りますというところがいっぱいあるんです。

石田 なるほど。そういう縛りって反発しますね。

沢田 でも、それはしょうがないから。そのうちに僕なんか、署名ができるころでしかコンサートをやらなくなる。

石田 反骨の男・沢田ですね。ちなみに、大阪弁護士会のホールは、署名活動OKです。800人入れます。音響効果も良いようです。是非、ご利用ください。

沢田 800はすごいですね。どこにあるんですか。



石田 中之島の中央公会堂の川向い。裁判所の隣。

沢田 そうですか。あのあたりよく歩いていますよ。

石田 平和の問題は、理屈を山ほど言うだけではなく、沢田さんの感性を伝える、若い人向け、中年向け、我々のように中年を超えた人向けに、頑張ろうという思いを本職の歌で伝えてもらいたいと思います。

沢田 若い人には、僕なんかは関係ないですよ。

石田 そういえば、私びっくりしたんですけれど、昨日、日弁連の仕事で、23歳の事務局の女性と一緒に長野に行っていたんです。それで、「私、明日、沢田研二さんと会うねん」とうれしそうに話をすると、「沢田研二さんって誰ですか」、「ジュリーって知ってるでしょ」、「それ誰ですか」って。で、こんな歌知ってる？と少し歌ってみただけど、下手なものもあってか首をかしげるので、家へ帰ってお母さんに聞いてみてというやりとりをしました。うちの娘も20半ばですが、これは当然知っています。でも、若い人でも、カラオケが好きな人は知っています。

沢田 カラオケでは、その時代のタイムリーな人を歌ったほうがいいけど、先にみんなにタイムリーな人の歌を歌われると、違う線から行こうかなって言って「勝手にしやがれ」を歌うとかですね。

石田 ところで、話を戻しますが、温暖化の国際的な交渉などを見ていると、ヨーロッパやアメリカでは、沢田さんのような方がちゃんといてくれるんですよね。それも非常に自然な形で。それがうらやましいですね。

沢田 世界的ないろいろな人が出てきますよね。U2のボノさんとか。彼らは世界的に稼ぎまくってるから、お金も出せるし口も出すという人たちですね。それに、向こうはもともとそういう土

壌があるからね。

石田 そうですね。日本でも沢田さんたちがこうやっているんなら社会問題について発言をしていただけたら、とてもうれしいです。

沢田さん家の家事分担

石田 ところで、話はがらっと変わりますが、沢田さんの所は、ご夫婦とも共働きじゃないですか。家事なんかはどうなさっているんですか。

沢田 僕は、朝の食事は大体自分でやるんですよ。簡単な野菜炒めと魚を焼いたり、納豆をまぜたり、ご飯を炊いたり。それも全部お母ちゃんに教えてもらって。

石田 料理はお得意ですか。

沢田 **まあまあ好きです。自分たちの好きな味でやってるのでね。2人が忙しいときはしょうがないですけど、洗濯物もたまるけど、どっちか家にいるほうが率先してやると。**

石田 わあ。いい夫婦関係ですね。普通にいい。ここは、大阪の会員に是非読んでほしいとこなんで、ゴシックの太字にします。

我々の感覚からすると、大スターの家は、お手伝いさんとかいらっちゃって、家のことは全部してもらっている

というイメージがあるんですが、そんなじゃなくて、全部お二人で？

沢田 僕は、人が家に入ってくるのは嫌なんです。母親の友達やお母ちゃんの母親なんかは、あんたら2人とも忙しいんだから誰か雇いなさいと言うけど、いや、僕がやるから大丈夫やと。

石田 お掃除なんかもご自分でされるんですか。

沢田 掃除も、まあ。

石田 人様に掃除とかに来てもらおうと思ったら、ちょっとは片づけなさいませぬよ。

沢田 うん、まずね。

石田 それをするぐらいやったら、もう自分でやろうかと思えます。

沢田 そうそう。お互いにお互いのことを、「早くそこ片づけなさい」と言われて、「はいはい」と言いながら、自分のところは自分が好きなようにやって。

石田 2人だけやったらそんなに汚れることもないし。

沢田 そうですね。ただ、猫がいるから、掃除は大変ですよ。

石田 お酒はよく飲まれるんですか。

沢田 お酒は好きです。最近は日本酒が多くなりましたね。日本酒半分と芋焼酎を水割りです5~6杯。本当はもっと



飲めるんですけど。お母ちゃんと二人で飲むこともあります。

石田 それもまた仲がよくていいですねえ。ほんとに。

自由に表現できる場を求めて

石田 沢田さんが無口で地味とか書いている記事を見たんですが、そうなんですか。

沢田 昔はそうでしたよ。人気はあったから「平凡」だの「明星」だの週刊誌だのにいろいろ聞かれて、いっぱいしゃべるんだけど、まあいうたら、先方のいいように全部変えられるわけです。元気で明るくて。それが嫌で、そのうちに、言うたとおり書いてくれと。「それじゃ、君、人気がだめになっちゃうよ」と言われるんだけど、それはそれでいいですからと。そこそこの人気のおかげには「分かりました」とは言ってもらえなかったけど。言ったことしか書かないでくれ、それをチェックさせてくれと言い出して、そうすると自分でも責任を持つと思うしという具合にだんだんようになってきたんです。そういうことがない限りは、ずっと無口で地味だったと思うんです。だから、一生懸命しゃべるようになったんです。

石田 確かに、若いころは余り話すという雰囲気ではなかったですね。

沢田 まあね。それでね、大人の記者がその人の了見で書くわけですよ。特に新聞なんかだと「もっと何かないの?」と言われちゃうわけ。「何かいいこと言ってくれないと記事にできないな」と。今から考えたら、40代の人に、僕ら20代でちゃらちゃら、こうでもないあでもないみたいなことしか言わない。「君さ、何でここに出てきたの?」と言われちゃうわけですよ。

週刊誌とかは、どこかで渡辺プロというものとなあなあところがあるん

だけど、新聞社は、それもスポーツ誌じゃなくて朝毎読売なんかのところに出てもらうとなったら、「おまえ、余計なこと言うなよ」と言われて行くわけですけど、別にそんな志高くてこんな仕事なんかしてないでしょうということから始まってもう終わっちゃうから、一生懸命ね、かといって自分がしんどくないように、頑張り過ぎるとお利口ちゃんに言うてもうて嫌やわというふうになってしまうからね。僕が大好きなのは、どっちつかずの話をするのが一番好きなんです。自分のことを分かってもらおうと思って一生懸命話すようになった。そうやって話すと、これだけ話したのにこれぐらいしか記事にならないということになって、今は別にどこが出ようが——僕ね、テレビにも呼んでもらわなくていい、ラジオも呼んでもらわなくていい、新聞も来なくていい。だから、自分がコンサートをやるとなると自分でできるわけですよ。スポンサーなしですよ。

石田 表現する場を持つてらっしゃるから。

沢田 個人事務所ですよ。一代限りの事務所を自分のためにやる。何のために渡辺プロから独立したかという、渡辺プロだとかやっぱりもうちょっと大人の考え方で、ここはここでつき合っとけど。でも、嫌いな人だっているわけですよ。だんだん年を重ねていくと、ここは切らないと自分の元気が出ないというところがちょこちょこ出てくるんですね。

弁護士のイメージは最悪でした

石田 ところで、弁護士に対しては、どんなイメージをお持ちですか。弁護士は敷居が高いとか、親しみにくいとか言われるんですが、なにかいいアドバイスをいただけませんか。

沢田 昔は、弁護士にはいいイメージ

はありませんでした。弁護士という仕事があるのはアメリカ映画で知っていたけど、実際に弁護士と接触したのは、僕がソロになってから新幹線の中で暴行事件を起こした時が初めてです。その示談の時に週刊誌側が弁護士を連れてきて、「こうやって出ちゃあ、もう終わるんですよ」と言われたことがあって、そのときの弁護士の印象が物すごく悪かったですよ。「くそ、嫌なやつ」というのが最初の印象です。日本の弁護士ってこういう人なんやと。

石田 お幾つぐらいのときですか。20代?

沢田 まだ30前でしょうね。

石田 それまでは弁護士という人種とは1回も顔を合わせたことがなかったんですか。

沢田 ですね。それからずっと間があって、ここのお店に来るようになって、最初僕1人で予約もなしにここに来てきて、そしたら大将が、他のお客さんに「先生、先生」と言うてるから、ここのお客さんはお医者さんばかりなんやと思っていました。この時間に寿司屋に来るんやから、お金を持つてるのは絶対お医者さんやと思っていました。その中に今日の対談を設定していただいた山下先生がいてね。先生やそのお友達の弁護士の方と知り合ってから弁護士に対するイメージはがらっと変わりました。

石田 どんなイメージですか。

沢田 普通の人というイメージ。いろいろな方がいらっしゃる。大きな声で、「沢田さん」と言う人もいるしね。「もう帰っちゃうんですかー」と言う人もいれば、阪神ファンの方もいらしてね、一緒にそんな話ができるとかね。楽しいです。

石田 沢田さんも阪神ファンですか。

沢田 はい。

石田 こどもゴシック太字にしておき

ます。

沢田 それから印象が変わりました。あと、法テラスの仕事もさせてもらいました。ここで知り合った尊敬する先生からちょっとやってくれませんかといわれて。

石田 弁護士の敷居を低くするには何をすればいいのかみたいなことを結構みんな真剣に議論してるんですけど、どうしたらいいですか。

沢田 いやあ、分かりませんが……普通に生活しているんなところで会っていくしかないのでは。

石田 若い女性会員なんかはママ友がいっぱいいるとか、その中で悩みは一緒に普通というのが分かるでしょうね。先ほど沢田さんに家事のことを質問して、家事を分担されていることが新鮮な感覚で、私たちと一緒にだという親しみをもちました。我々もまたそんな印象を持たれているのかもしれないね。

沢田 そうですよ。

石田 今日、同席している弁護士もみんな同じように夫婦で仕事をしていて、子どもがどうしたこうしたとか、どれだけ部屋が汚いかとか言い合っ、悩みを共有しています。

沢田 あと、仁鶴さんが土曜日にやっている番組に弁護士さんが出ていますね。そういうのも親しみを持ってもらえるんじゃないですか。

石田 弁護士には芸達者な人が多いで

す。先日も、大阪弁護士会のラジオの広報番組の公開収録がありまして、弁護士の劇団が皆様の前でコントをしたんですが、これがまたおもしろい。また、ご覧いただく機会があれば是非見てほしいです。

若手弁護士に送るエール

石田 最近、弁護士は人数が急激に増えたこともあり、若手弁護士はいろいろ大変な状況です。沢田さんも歌手としていいときもあったし、しんどいときもあったと思うんですけども、そういう経験も踏まえて、若手にエールを送っていただけますか。

沢田 僕が思うのは、いい仕事がある前にしょうもない仕事に走ってしまう人が何に限りなく多いんです。僕らの世界でもそうなんですけれども、せっかくそこまで待ったんやったら、この仕事やらんでええやろうと思う仕事をしている人がいたりするんですね。待つということは、とても大変なことだけど大事だと思うんですよ。そうじゃなかったら、自分はこういうものをやりたいという目標を定めたら、そこに突き進んで、そこじゃなかったらだめですからと言って何回もいろいろなところに行く。途中でこら辺で手を打ちやうというふうになると、その次にいい仕事があるかもしれないのに大変なことになる。自分の予定どおりに世の中が動

いているわけじゃないから、世の中に自分を合わせるしかないんだけど、合わせるということは何かという、待つことしかないんですよ。自分の波長に合ったものが来るまで、これは違う、あれは違うと言ってやらないと。もちろんそれでずっとないまま終わったということになるのかもしれないけど。

それと、頑張り時というのがある、それは調子がいいからもっとよくしようというときじゃなくて、それは逆境のとき——調子のいいときには、人に「もういいよ、飽きたよ」と言われる前に、自分が先に、そんなに先まで行ってどうするのと言って自分で自分の手綱を引き締めて、ピークはもっと後というふうな、それこそ第4コーナーはもっと先というような物の考え方ができるんです。若い人たちは多分言っても分からないと思うんですけど、そうじゃなかったら自分で探しに行くしかないですよ。自分で仕事をつくるんですよ。

最後に

石田 本日は長時間、いろいろお話を聞かせていただきありがとうございます。楽しい時間でした。これからも元気で活躍ください。平和の問題は、前よりさらに深刻な事態になろうとしています。これからも、お互いががんばりましょう。ありがとうございました。

(Photo : 矢倉昌子)



対談を終えて

楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。セクシーで綺麗なジュリーから、自分の信ずるところを自由に堂々と表現する反骨の男、格好いい沢田研二となっていました。このほかにも、率直にいろんな話をいただきましたが、紙面の関係で割愛せざるを得ませんでした。最初は少し緊張していましたが、やがて、昔同じクラスだったけどそんなに話をしたことはないイケメン男子と久しぶりに会った同窓会という雰囲気でお話ことができました。感覚的にも共通点はいっぱいあり、後 20 年、沢田ファンであり続けるであろうことを確信しました。